

## 薬剤師が問われているもの

内山 充

「いまや薬剤師にとって新時代が到来した」という声が盛んに聞かれます。社会需要と医療環境の変化が着々と進み、それに伴って、医療の中での薬剤師の役割と関与が明確になった結果、「医療制度の中で本当に薬剤師が必要なのか」「医薬分業は必要なのか」などという問いかけのあった時代をとうに過ぎて、最近では、薬剤師が薬物療法の知識を生かして医療の一端を担い、また保健、福祉の場においても責任ある役割を果たすことを期待されるようになりました。

事実最近の数年間に、医療の質の向上を目指す大きなニーズと変化によって、医療法、薬事法、薬剤師法、学校教育法等の法規の改正が行なわれ、法的にも医療における薬剤師の役割と責任が大きく変わり、国家試験の受験資格となる教育年限も6年に延長され、本年4月から6年教育が開始されています。確かに薬剤師にとっては、画期的な「新時代」というべき時期に違いありません。

これらはすべて、薬剤師が専門職として良質な医療体制の確保に貢献できる舞台ができつつあることの現れです。その舞台で実質的な効果のある活動を行い、医療を通じて国民の健康と生活の向上に貢献することは、今や薬剤師と薬学関係者全員に課せられた命題であることはいままでもないことです。

6年制教育は確かに画期的であり、われわれが当面している変化の象徴ではありますが、大学教育だけにこの変化に対応する役割を負わせるわけには行きません。既存の薬剤師がそれぞれに、今問われていることを正確に認識していることが最も必要なことです。

既存薬剤師には、

- ①あらゆる職責を通じて、医療への寄与を自らの問題だと自覚できるか
- ②自信を持って職務を果たすための学習努力を続けられるか
- ③あらゆる場を通じて薬学生、薬剤師初任者あるいは仲間の模範となる行動が取れるか
- ④それらの努力を患者に知ってもらえるような積極的な行動ができるか

が、今問われています。

①、②は現段階ではおそらく大部分の薬剤師にとってクリアできているのではないかと期待されます。③、④は相手のある行為であり、相手との信頼関係が必要であり、そして職務上の結果の出るところです。声を出し、行動を起こさなければなりません。しかも、行為そのものが目的なのではありません。行為さえ出来ればよい訳ではありません。その行為によって最終の目的すなわち「医療の質の向上」や「患者のQOL向上」が達せられなければならないのです。常に自ら省みて次の行為をよりよくする努力を怠ってはなりません。

「新時代」を掛け声だけに終わらせないために、一人ひとりの薬剤師の日常の働きに、大いに期待したいと思います。